

「心塞意閉」 「耳目開明」

岐阜教区第15組 岩佐 善夫

金子みすゞさんの作品に「大漁」という詩があります。

「大漁 朝焼小焼けだ 大漁だ 大羽鱈の大漁だ 浜は祭りのようだけど 海の中では
何万の 鱈のとむらい するだろう」

大漁を喜ぶのは当たり前です。お祭り騒ぎをするのも当たり前です。しかし、それだけでいいのか。大漁の裏には悲しみがある。当たり前、それだけで終わって欲しくない。そんな願いが聞こえてきます。また、それは仏説無量寿経にある「心塞意閉」と「耳目開明」という言葉、私たちが心に蓋をして、考え方を「自分だけよければ」と殻に閉じ込めている、だから耳と目を明るく開けという教えを表していると思うのです。

嘘が嘘とわかっているのに平然と語られることが話題になります。「あつてはならないこと」が次々に起きてしまう、「どうなっているんだ」という話にもなります。しかし、そんな話も、最後には「現実 is 厳しい」「多少の嘘は、しかたがない」「これが当たり前」で終わってしまいます。それが、世間を知った者の常識だとなるのです。

ここに私たちの問題があると思うのです。最近「危機意識を持つ」とよく言われますが、その危機は何なのか。私はこのことが危機だと思うのです。

「現実 is ……」と言うことで、考えることをやめてしまいます。「しかたがない」「当たり前」と言えば、楽になります。しかし、問題は問題として残り、やがて取り返しのつかないことに発展してしまい「こんなはずではなかった」という嘆きのみが残ってしまうと思うのです。

「心塞意閉」「耳目開明」の教えに応え、金子みすゞさんの願いに耳を傾けること、今、大切にしたいと思っています。